

## 「活動の概要と研究成果」

NO.J2414

活動題目: マレーシアにおけるイスラームとジェンダー: イスラーム金融の事例から

所属: シンガポール国立大学人文社会科学部社会学・人類学科

氏名: 北村 秀樹

本研究は、東南アジアを代表するイスラーム金融大国・マレーシアにおいて、2000年代以降目覚ましい活躍を見せる女性リーダーたちに着目し、彼女たちの登用が宗教的・社会的なジェンダー規範といかに関わってきたかを明らかにすることを目的とした。イスラーム金融はイスラーム法に準拠した経済実践として1970年代以降に発展し、特にマレーシアでは女性幹部の割合が比較的高いことから、男女平等の象徴として国際的に注目されてきた。

本研究では、クアラルンプールを拠点に金融機関関係者や政策関係者へのインタビュー調査、及び関連資料の収集を行った。その結果、2000年代に女性リーダーの登用が加速した背景には、国際的な女性支援の潮流(たとえばCEDAW批准や北京会議への参加)だけでなく、当時の与党UMNOが国内のイスラーム政党との対抗軸として「近代的イスラーム像」を打ち出す中で、女性登用を象徴的に活用したという国内政治的な文脈があることが明らかになった。

一方で、登用された女性リーダーの多くが男性エリートとの親族・人的関係を背景にもっていたことや、制度改革よりも既存の権力構造に組み込まれる傾向が強いことも確認された。宗教的規範の変容には一定の進展が見られるものの、社会構造の変革には至っていない実態も浮き彫りとなった。

また、ジェンダーというセンシティブな話題に対するインタビュー手法の工夫の必要性に加え、想定していた資料館の利用制限など、資料収集においてもいくつかの課題に直面した。本研究は今後さらに理論的整理を進めるとともに、代替しうる資料館での長期的なアーカイブ調査も見据えて展開していく予定である。